



## 大図研京都ワンディセミナー 終了しました

テーマ：『ディスカバリーサービス：導入とその後について経験者が語る』

概要：利用者の利便性が飛躍的に向上されている「ディスカバリーサービス」は、図書館にどのような影響を与えるのでしょうか。  
「ディスカバリー」の基礎知識や導入に至る経緯、導入後の効果などを講師の方々にディスカッション形式で語っていただきます。

講師：飯野 勝則 氏（佛教大学図書館）  
安東 正玄 氏（立命館大学図書館）

日時：2012年6月2日（土）13：30～16：45  
会場：キャンパスプラザ京都 第1会議室（JR 京都駅ビル駐車場西側）  
URL: <http://www.consortium.or.jp/>

主催：大学図書館問題研究会 京都支部

参加人数：63名

※なお、次頁より、

小特集：

大図研京都ワンディセミナー「ディスカバリーサービス：導入とその後について経験者が語る」参加報告  
として、3本の参加報告を掲載しております。

### [目次]

大図研京都ワンディセミナーのご案内	… 1
小特集：大図研京都ワンディセミナー「ディスカバリーサービス：導入とその後について経験者が語る」参加報告	
ディスカバリーサービス：セミナーそして懇親会	小林 明生 … 2
初めてのワンディセミナー	山上 朋宏 … 3
探すことは楽しいこと	末田 真樹子 5

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：[kyoto@daitoken.com](mailto:kyoto@daitoken.com)（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

---

**小特集 : 大図研京都ワンデイセミナー「ディスカバリーサービス: 導入とその後について経験者が語る」 参加報告****ディスカバリーサービス: セミナーそして懇親会****小林 明生**

---

大図研京都ワンデイセミナー「ディスカバリーサービス: 導入とその後について経験者が語る」に参加させて頂きました。佛教大学の飯野さん、立命館大学の安東さんのお話ということで、楽しみにして聴きに行きましたが、約4時間の講演があつと言う間に感じるほどの素晴らしい内容で感激しました。講演中、安東さんが「お金払っても聴きに来た価値あったでしょう?」と言われていましたが、まさしくその通り! 聴きに来られなかった方は、ちょっと損したかもしれないですね。というか、参加費安すぎじゃないですか? あれほどの内容なので、もうちょっと取れましたよ。なんて思うのは商売人の余計な発想ですね。

セミナーの内容について。

最初は飯野さんから、ディスカバリーサービスについての基礎講義から始まり、その概念や歴史の説明、それが次世代 OPAC(NGC:Next Generation Catalog)とほぼ同義であり、その中でも WSD:Web Scale Discovery と呼ばれるものが、「次世代の中の次世代」と呼ばれるべきものである点などの解説を受けました。その後、飯野さん、安東さんより、佛教大学、立命館大学それぞれの導入に至る経緯や、導入効果、問題点など、かなり実際的なお話しが聴けました。私は図書館員ではないので、どうしても図書館の方が裏で苦勞されている部分を理解しきれてない事が多いです。特にディスカバリーサービスのような、まだそれほど国内で普及していないサービスですと尚更ですので、今回のような具体的なお話を聴く機会が持てるのは貴重でした。

私のような書店員、つまりコンテンツを販売している立場からすると、一番気になる点は、ディスカバリーサービス導入後の各コンテンツの使われ方です。セミナーを聴かれた方はお分かりだと思いますが、ちょっと劇的な統計結果もありましたね。。ディスカバリーサービスの導入によって、もちろん間違いなくコンテンツの利用(Web コンテンツのみならず、冊子体も)は増えるわけですが、中には逆に利用が減るコンテンツも出てくるというのは驚きでした(大人の事情で具体的に何がとは書けないですが)。「ディスカバリー対策」などと書くと表面的ですが、コンテンツメーカーは今後、ディスカバリーサービスの普及によって、コンテンツ相互の競争に晒されることを一層意識して、コンテンツ制作をして行く必要があるでしょう。

セミナーの後の懇親会でも少しお話したので、ここでも書かせてもらおうと思いますが、紀伊國屋書店はディスカバリーサービスについて、OCLC World Cat Local を本格的に取り扱うことにしました。もう数年前からこれを本命視して取扱いを検討していたのですが、セミナーでも飯野さんが言及されていた通り、導入ハードルが高すぎたのが難点でした。最大の難点は、日本のほとんどの大学図書館はそもそも WorldCat に所蔵を登録していない、図書館システムで採用している NACSIS 形式のフォーマットと MARC21 で互換性がなく運用面が面倒ということでした。この問題の解決にメドが付きましたので、ようやく取り扱い開始です。今夏、東京と大阪でお披露目のセミナーも行いますので、ぜひ期待して下さい。

ちょっとついでに懇親会のお話も。

私はたまたま席が一緒だった日本酒党の皆さんとハイピッチで飲んでしましまして、

一次会で離脱しましたが、さすが大図研のパワフルな皆さんは強いですね。二次会にさっそうと向かうお歴々の背中が眩しかったです。(敗北感すら感じました。) 以前住んでいた神奈川の大図研に参加した時も、みなさん強かったです、図書館員の勉強量と酒量の間には、なんらかの比例関係があるのではないかと睨んでいます。

ともあれ、講師の飯野さん、安東さん、ワンデイセミナーの準備から当日の事務、懇親会の手配まで行って頂いた皆様、お疲れさまでした。夏の全国大会も素晴らしい会になるよう期待しています!

こばやし あきお (株式会社 紀伊國屋書店)

---

## 小特集 : 大図研京都ワンデイセミナー「ディスカバリーサービス: 導入とその後について経験者が語る」 参加報告

### 初めてのワンデイセミナー

山上 朋宏

---

2012年6月2日(土)、大学図書館問題研究会主催のワンデイセミナー、「ディスカバリーサービス: 導入とその後について経験者が語る」に参加させていただきました。ほとんどディスカバリーサービスの知識なしでの参加でしたが講師のお2人の丁寧な報告、説明のおかげでわかりやすく、私のような初心者にとっても大変有意義なセミナーでした。

第一部は佛教大学の飯野さんによるディスカバリーサービスの基本から最先端のディスカバリーサービスであるWSDについてのお話でした。

まず、ディスカバリーサービスの名称は様々な意味に使われているので、ここでは次世代OPAC(NGC: New Generation Catalog)と定義していました。従来型の横断検索システムなどを振り返って、その仕組み、特徴、問題点などについて説明した後、NGCの歴史的過程を振り返りました。NGCは従来型検索ツールの最終形態として登場し、米国において電子化による貸出冊数の急落を防止したそうです。そして、NGCを適用するために目録データの矛盾の修正やファセット分析への積極的対応、目録ワークフローやポリシーの修正などのインパクトを与えたことなどについて解説いただきました。

続けてNGCの中でもより次世代であるウェブスケールディスカバリー(WSD)について説明いただきました。WSDとはウェブスケールを持つNGCであり、World Cat Local(WCL)、Summon、Primo Central、EBSCO Discovery Service(EDS)のBIG4とEncore Synergy(入るかどうかが議論がある)がWSDと言われています。では、ウェブスケールとはなにか。それはウェブにおける極めて巨大な量的概念を意味し、OLCによると図書館本来のスケールであるインスティテューションスケールの対義語であり、Marshall Breeding 曰く新しいパラダイムであるというお話でした。WSDでは検索モードにそれがみられ、世界中の図書館資料を検索できるグローバルモード、自館の持つ資料を検索するローカルモードが存在します。WSDはグローバル=ウェブスケールの検索が可能でありグローバルモードがなければWSDではないと言われています。また、WSDの技術的な特徴としてクラウドサービスとして提供されること、メタデータを統合したウェブスケールな検索用の「セントラルインデックス」を有していること、電子リソースに対し、定期的に自動でハーベストを行う仕組みを持ち、利用者に最新の

検索データを提供できること、単一窓での検索で検索結果すべてを関連度順に表示できることがあげられるそうです。これらにより検索の反応速度の上昇やハードウェアのメンテナンスフリーが可能になりました。また、ハーベストにより元のDBがダウンしても検索可能であることは魅力的であると感じました。

最後に形のある資料だけを提供する時代が終わった現在、WSDは提供すべきスケールや図書館業務を変化させ、図書館の変革を起こす可能性を持つというWSDを導入する意味についてお話をいただきました。

第二部と第三部では佛教大学と立命館大学のディスカバリーサービスの導入過程とその評価について佛教大学の飯野さんと立命館大学の安東さんにお話いただきました。この報告では私が印象に残ったことについて簡単に書かせていただきます。

#### ・ディスカバリーサービスの導入の背景と導入の時期

検索速度の問題や検索能力が各DBの検索能力に依存するなどの現行システムへの不満があったようです。また両館ともシステム入れ替えの時期の導入であり、当り前ではありますが導入は大事業であると感じました。

#### ・立命館が先行の Summon ではなく EDS (EBSCO Discovery Service) を採用した理由

構想段階ではEDSは日本での実績がないため不安定要素が多く、佛教大学での実績がある Summon ありきで進めていたそうです。しかし、両者を比較検討したところ、外国語のコンテンツは Summon のほうが多かったものの、日本人サポート体制やサーバー管理の点ではEDSに利点があり、EDSを採用したそうです。また日本語コンテンツ数はあまり変わらず長期的視点では大差がないとの判断もあったそうです。

#### ・導入の効果、影響

佛教大学では来館者数が減る中でコンテンツ利用という点で伸びが見られたそうです。Summon 経由の OPAC の利用が増え、前年度比で貸出が 108%も増加したというお話には驚かされました。また、日経 BP やメディカルオンライン CiNii Articles などの日本語記事・論文ダウンロード件数も増加したそうです。

一方、一部のDBは大幅な利用の減少が見られ・前年度に比べ2割の利用しかないものもあったと報告されていました。ハーベストの重要性を痛感しました。

また、ILL の減少も見られたそうです。オンラインサイトを通じての非対面申込における謝絶率の減少は利用者が学内で見つけられるようになったとも捉えられるかもしれませんが。しかし、ILL の減少は全国的な現象で評価が難しいようです。

#### ・リンクリゾルバの重要性

Summon のポテンシャルは高いが一次情報への誘導の点で単独では十分な能力を発揮できず、リンクリゾルバが必須になってくるとのことでした。リンクリゾルバの重要性については講師のお二方とも指摘されており、ディスカバリーサービスを提供する上で欠かせない要素であると感じました。

以上、2人の講師の方からディスカバリーサービスの導入とその評価について発表いただきました。何よりもディスカバリーサービス後の目に見える変化の大きさに驚きました。セミナー後、学外からの利用ではありますが実際に検索してみて、従来の OPAC と違い、図書資料や雑誌記事、電子リソースがワンストップで検索できるだけでも利用者のストレスの軽減と利用する資料の拡大につながると感じました。ハーベストの問題やでファセット分析するための件名不足などディスカバリーサービスを運営する

上での課題も今回のセミナーでは報告されていました。しかし、それでも魅力的なサービスであることは間違いのないと思います。紙だけでなく、多種多様な媒体の資料が存在する現代の図書館において、ディスカバリーサービスは利用者にとって大きな助けになると思います。

最後になりましたが講師のお二方、企画していただいた京都支部の方々、貴重な機会を本当にありがとうございました。

やまがみ ともひろ(京都大学附属図書館)

---

## 小特集 :大図研京都ワンディセミナー「ディスカバリーサービス:導入とその後について経験者が語る」参加報告

### 探すことは楽しいこと

末田 真樹子

---

2012年6月2日、キャンパスプラザ京都で開催された大図研京都ワンディセミナーに参加しましたのでご報告します。夏の香りが漂い始める京都で佛教大学の飯野氏、立命館大学の安東氏より、ディスカバリーサービスについて紹介いただきました。セミナーは、まずディスカバリーサービスについての基礎知識編、佛教大学と立命館大学の導入経過など、そして両大学の構築に関するディスカッションの三部構成でした。

第一部:ディスカバリーされている基礎講座—横断検索・次世代 OPAC(NGO)から Web

スケールディスカバリ(WSD)へ

現在、「ディスカバリーサービス」には、WorldCat Local、Summon、Primo Central、EBSCO Discovery Service などの製品が存在していますが、これらディスカバリーサービスを定義するための切り口として、①NGC(Next Generation Catalog)②ウェブスケールディスカバリ③検索エンジンという視点が提示されました。

検索ツールの歴史を辿ってみると NGC がアメリカの図書館にインパクト、具体的には貸出冊数減少の歯止め、目録データの見直し、ファセットへの対応、ワークフローの見直し、といったインパクトを与えました。そして、ディスカバリーサービスと NGC との間には、画面構成やファセット分析による絞り込みなど共通点がいくつか見出されます。ディスカバリーサービスは NGC の中の次世代、と言えるのかもしれませんが。

では、どういった点で「次世代」なのでしょう。2 つめの切り口として「ウェブスケール」であるという点です。ウェブスケール概念には明確な定義はありません。OCLC による報告書“Libraries at Webscale”によると「institutions-scale の対義語」[Libraries at Webscale, 2011]、また Marshall Breeding 氏によると「新たなパラダイム」「クラウド」「利用者と資料を結びつける」といった説明がされています。もともと情報工学分野のワードで量的概念を示すものなそうです。ディスカバリーサービスにおいては、その検索モードに「グローバル」と「ローカル」を持っていることが前提となっており、重層的な検索が可能になります。

2011年、OPAC の次世代度調査とその要件が発表されました。[E1209 - 北米 260 大学の OPAC の「次世代度」をチェック<文献紹介>, 2011]「次世代 OPAC」の機能として選ばれた 12 項目をどれくらい実装しているか調査したものです。これによるとこの要件のうち、11 項目以上を満たす OPAC はなく、また 6 個以上の項目を満たしたも

の多くがディスカバリーサービスだったそうです。

このディスカバリーサービスはまだまだ、発展途上のものですが、学術情報のスケールや図書館管理業務、さらには図書館の機能そのものにも変化をもたらすものかもしれません。

## 第二部：Summon 導入とその評価—佛教大学図書館の場合

第一部に続いて、飯野氏より佛教大学での事例方向が行われました。

もともと横断検索に SerialsSolutions 社の製品を使用していたそうです。横断検索の導入は利用率を向上させましたが、一方で、検索結果の並びが反応順、検索能力が各データベースに依存、接続が不安定など問題もありました。

そこで、図書館システムのリプレイスにあわせて Summon が導入されました。クラウド環境、十分なコンテンツ対応、日本語サポート、複数年契約などの理由から Summon を選択されたそうです。

導入にあたり、いくつかの課題も紹介されました。まず、日本語の問題としてマッピングや文字化けへの対応が紹介されました。さらに簡易書誌や削除書誌を Summon に伝えるために1ヶ月に1度の上書き更新で対応されているそうです。

他の問題点としては、ハーベスト、ファセット分析にあたってデータ不足、ローカル画面のカスタマイズ等が上げられました。

導入から1年が経過し、リンクリゾルバの重要性を再認識されたそうです。リンクリゾルバがないと Summon も十分に機能を発揮できません。ディスカバリーサービスはあくまで二次情報データベースです。一次情報への誘導のため、リンクリゾルバがポイントになってきます。これに関連して飯野氏はダイナミックリンクリゾルバを開発されたというお話も聞きました。

利用の側面からの Summon の波及効果としては、OPAC の利用・貸出冊数・論文(特に日本語論文)ダウンロードの増加、ILL は減少です。Summon を通じて従来は気が付かれにくかった日本語データベース、雑誌のバックナンバーにアクセスできる学生が増えたと言えるかもしれません。利用が増えたのは Summon に含まれるものだけではなく、搭載されていなくても増加しているデータベースもあるそうです。Summon がデータベースの存在や、それらを利用できるということに気がつくきっかけになっていると言えるのかもしれません。

しかしながらその一方で、Summon にインデックスされないデータベースは利用が減っているという統計結果も出ています。

今後は API、リンクリゾルバを通じた効果的な連携が課題であるということでした。

## 第二部：立命館(立命館大学、立命館アジア太平洋大学)のディスカバリーサービス導入経過

続いて立命館大学の安東氏より、EBSCODiscoveryService(EDS)の導入経過を報告いただきました。

立命館大学では2012年にシステム更新とあわせて、EDSを導入しました。導入のきっかけとなったのは「システムで何かできないか」という上司の一言だったそうです。そして立命館大学は日本で最初の EDS を導入した図書館になりました。

導入にあたり、安東氏もリンクリゾルバの重要性を言及されました。例えば EDS には ProQuest 系のコンテンツは掲載されません。そのため、SFX データを EDS に取り込ませ、補いました。

しかしながら、立命館大学では導入後、リンクリゾルバのメンテナンスがされていなかったそうです。それには既存のシステム入替作業にエネルギーを割かざるを得ないという人的資源の問題が影響しています。また既存の OPAC との連携(例えば「貸出中」

表記の制御)もこれからの課題ということでした。

最後に今後について検索の絞込みだけでなく、さらにキーワードによって広がっていく検索や所蔵データと EDS に搭載されているコンテンツとの連携、また、少しでも一次情報へのたどり着ける仕組み、一次情報に掲載されている論文に掲載されている「参考・引用論文」へのダイレクトリンク機能の要求を考えているということでした。

### 第三部：構築で工夫した点や今後の課題

最後は、両氏とフロアを交えて意見交換・質疑応答が行われました。

それぞれの発表でも言及された日本語対応、上層部への説明、販売元への要望、ローカルとの連携について補足されました。

フロアからの発言より、ディスカバリーサービスの導入を検討している大学が他にも多くあることを知りました。安東氏より、ディスカバリーサービスをコンソーシアム単位で導入という可能性も示唆されました。

個人的に印象に残ったのは、ディスカバリーサービスに非搭載のデータベースも利用が伸びたという飯野氏の言葉です。電子資源を使う意欲や使い方を、ディスカバリーサービスを通じて学んでいるのかもしれない。「学術情報の Google」という比喻も出されましたが、ディスカバリーサービスが学術情報の多様さに気が付くきっかけになりうるとしたら、検索の楽しさを伝えられるきっかけになるのかもしれない。

### 参照：

E1209・北米 260 大学の OPAC の「次世代度」をチェック<文献紹介>. (2011 年 8 月 25 日).参照日: 2012 年 7 月 2 日, 参照先: カレントアウェアネス・ポータル: <http://current.ndl.go.jp/e1209>

Libraries at Webscale. (2011).参照日: 2012 年 7 月 2 日, 参照先: OCLC:

<http://www.oclc.org/reports/webscale/>

大学図書館問題研究会 京都支部ワンディセミナー「ディスカバリーサービス：導入とその後について 経験者が語る」. (2012 年 6 月 2 日). 参照日: 2012 年 7 月 2 日, 参照先: togetter:

<http://togetter.com/li/313895>

すえだ まきこ(大阪大学附属図書館)

## 大学図書館問題研究会第 43 回全国大会のご案内

参加お申し込みや大会についての最新情報は、第 43 回全国大会の Web サイトをご覧ください。  
<https://sites.google.com/site/dtk2012kyoto/>

日時：2012 年 8 月 4 日（土）～6 日（月）

場所：コミュニティ嵯峨野（全国手話研修センター）

〒616-8372 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺広道町 3-4 Tel: 075-871-9711

参加費：4,000 円（会員） / 5,000 円（非会員） 懇親会費：5,000 円

※ 1 日のみの参加は 2,000 円（会員） / 3,000 円（非会員）

### プログラム

#### ■ 8 月 4 日（土） 1 日目

(12:30 - ) 大会受付開始

(12:45 - 13:00) ウェルカム・ガイダンス(初参加者向けオリエンテーションです。)

(13:00 - 14:45) 研究発表

- ・医学部を持つ大学図書館が学部生に対して実施している授業の実態調査

山下ユミ（京都府立医科大学附属図書館）

- ・報告：ラーニングコモンズデザイン会議@大阪

小村愛美（神戸大学附属図書館） 土出郁子、森石みどり（大阪大学附属図書館）

- ・日本資料と海外の大学・研究図書館：『本棚の中のニッポン』で伝えきれなかったいくつかのこと

江上敏哲（国際日本文化研究センター図書館）

(15:15 - 16:45) 記念講演「妖怪画の伝統と創造」

小松和彦先生（国際日本文化研究センター所長）

(17:00 - 17:20) 写真撮影

(17:30 - 19:30) 全体懇親会

(19:30 - 21:30) 自主企画

#### ■ 8 月 5 日（日） 2 日目：課題別分科会

(9:30 - 11:30)

第 1 分科会 利用者支援 A

第 4 分科会 リカレント教育

第 2 分科会 ディスカバリーサービス

第 5 分科会 類縁機関との連携

第 3 分科会 図書館経営

第 6 分科会 大学図書館史

(11:30 - 13:00) ランチタイムレビュー

(13:00 - 15:30)

第 7 分科会 利用者支援 B

第 8 分科会 学習のハブとしての大学図書館

第 9 分科会 出版・流通

第 10 分科会 研究支援・文献管理ツール

第 11 分科会 オープンアクセス

第 12 分科会 危機管理・施設

& 機関リポジトリ

(15:45 - 18:15) 全体会

(18:15 - 21:30) 自主企画

■8月6日(月) 3日目: オープンシンポジウム (9:00 - 12:00)

「大学図書館のアドボカシーとは? : 存在意義を伝え、共感を得るためには」

パネリスト

- ・杉山誠司氏 (大阪大谷大学)
- ・菊池美紀氏 (聖学院大学総合図書館)
- ・木下みゆき氏 (大阪府男女共同参画推進財団)

### 自主企画詳細

◆二日連続「地酒の会」 8月4日(土)、5日(日)

恒例の「地酒の会」を今年も開催します。しかも二夜連続開催です!! 一日(土曜日)は例年通り、みんなで持ち寄った「地酒」を気軽に楽しめます。二日目(日曜日)の夜は、有名な祇園の日本酒バー「花観酒房」の吉田澄男さん(SSI<日本酒サービス研究会・酒匠研究会連合会>認定きき酒師)をお招きして「日本酒」に関するお話をいただきます。どんな内容でお話しいただけるのか、今から興味深いです。お話し会で日本酒についての知識を深めた後に、吉田さんと一緒にじっくりと日本酒を堪能する機会を設ける予定です。例年とは違った趣向で楽しんでいただけるように企画しました。皆様のご参加をお待ちしています。

※8月5日は人数制限あり(先着25名)(8月4日は自由参加です。)

8月5日に参加を希望される方は、下記フォームより申込をお願いします。

◆京都のアーキビストと嵯峨野を歩く(8/5(日):2日目7:30~):定員10名程度

2日目の朝、7時半に集合して、野々宮神社まで散歩します。京都府立総合資料館の福島さんがお話をしてくれます。朝食は済ませてからお集まりください。嵯峨野に宿泊している方にお勧めの自主企画です。

参加人数を把握する必要があるため、希望される方は申し込みをお願いします。

受付の可否は後日メールでご連絡します。

◆肉食系図書館員の会 nikulib~Librarians×meat=meat~ 企画担当:福岡支部

とかく「地味」「おとなしい」と言われがちな図書館員はまさに草食系。本会は「肉食系」を思考のベクトルとして自己イメージの転換 および日常業務に取り組む姿勢の転換を図るものである。全国大会自主企画においては、「Librarians×meat=meet」をキーワードに交流を深め、リアルに肉を食べることにより明日への士気を高めることを目的とする。「~Librarians×meat=meet~びぶりおバトル」を実施し、肉食系図書館員ならではの視点で選んだオススメ本のアピールを行う。併せて、リトルプレス nikulib の配布を行う。

日時:2012年8月5日(日) 18:30-21:30

場所:全国手話センター

参加人数:上限20名

参加費:200円(資料費)

◆イノダコーヒでモーニング

京都のコーヒーといえばイノダコーヒ。

京都以外にも店舗はあるけど、本店にも一度行ってみたい。

三条、四条、地下鉄烏丸線の周辺に宿を取っているあなたにお勧めの企画です。

3日目の朝、イノダコーヒでゆっくりと朝食を食べましょう。  
朝食後は、シンポジウム会場へご案内します。(シンポジウムに参加しない人もぜひ。)  
参加人数を把握する必要があるため、希望される方は申し込みをお願いします。  
受付の可否は後日メールでご連絡します。

◆「京都府立総合資料館見学会」

見学時間：8月6日(月) 14:00-16:00

人数：10名程度

京都府立総合資料館 (<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>) は、京都に関する資料等を総合的に収集、保存、提供する図書館機能、文書館機能、博物館機能の3つの機能を有する総合的施設であり、博物資料、図書資料、古典籍、古文書から行政文書まで多様な資料を所蔵しています。また、資料のデジタル化など情報の発信も行なっており、現在は、府立大学図書館等との合築による新館計画も注目を集めているところです。この企画では、第5分科会「類縁機関との連携」の講師でもある同館の歴史資料課主任福島幸宏氏をナビゲータとして、総合資料館の概要をご説明いただいた後、書庫見学等の館内案内と「重要文化財 京都府行政文書」などの所蔵資料の見学を行います。

◆「京都女子大学図書館見学会」

見学時間：8月6日(月) 14:00-16:00

京都女子大学図書館は、その伝統を背景に、国内女子大学でトップクラスの蔵書数を誇る図書館です。

また、桂まに子先生(京都女子大学・図書館司書課程専任講師)の授業で、受講生が参考図書の紹介を“POP”で作成し館内に掲示するという大学図書館とのコラボレーション、「レファレンス POP」の取り組みで注目を集めています。さらに、この6月からは図書館学生サポートボランティア「図書活(トショカツ)」も活動を開始しています。この企画では、図書館内をご案内いただいた後、桂先生から「レファレンス POP」と「図書活」について、ご紹介いただきます。

注：上記自主企画は、webフォームからの事前申し込みが必要なものがほとんどです。  
ご参加を希望の方は、必ず、下記のサイトからお申し込みをお願いいたします。

<https://sites.google.com/site/dtk2012kyoto/home/self-plan>

◇ 会費納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に2012年度(大図研会計年度2012.07-2013.06)に入っておりますので、2012年度の会費の納入をお願い致します。また、2011年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

**会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000)です。**

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

**郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部**

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部(kyoto@daitoken.com)まで。